

中国空軍ニュース：中国空軍のスホーイ戦闘機の可動率は 70 乃至 80%  
漢和防務評論 20170904(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

SU-35 の対中輸出に関して、ロシアが整備保障期間 1 年を提示し、現地にメーカーの整備チームを派遣するようです。  
ロシアとしてはアフターサービスでも稼ごうという意図が見えていますが、プライドの高い中国人とうまくゆくかどうか？見ものです。  
インドネシアがすでに導入した SU-30MKM 戦闘機は、現地会社がインド製の部品を使って可動率が下がっている、とのことですが、これはロシア人の宣伝話で、実際はどうか分かりません。  
手を変え品を変え、自分のペースに巻き込もうとするロシアの姿勢は見事というしかありません。

KDR 平可夫マレーシア特電：

ロシア国家装備技術輸出入総公司 (ROSTEC) の輸出部部長で、マレーシア LIMA 航空ショー全ロシア軍事代表団団長 VIKTOR KLADOV は KDR の独占取材を受けた。彼は最新型対空ミサイル S-400 の対中輸出交渉、戦闘機 SU-30MKM の対マレーシア輸出交渉の責任者であった。現在はロシア軍事工業界輸出市場部門の直接担当者である。KDR と彼の関わり合いは 20 年以上である。

平可夫：VIKTOR さん、今日、KDR の多くの読者が我々に次のような質問をしました。すでにロシアは第一グループの S-400 を中国に提供したと発言したが、KDR は未だに S-400 は中国に提供されていない、と報道している。どういうことか、と。

VIKTOR：報道も間違っており発言も間違っている。ニュースを流した人は我々の同業者ではない。私がインドで貴方に話したように、この契約はまさに実行中である。2020 年までにはおおむね提供が終わるであろう。論理的に言えば、システム全体を提供するには時間がかかる。第一に指揮系統、レーダー、最後にミサイル本体となる。また訓練も必要だ。

最初に我々に S-400 の購入を表明したのは中国だ。(VIKTOR は北京に住んだことがあり、中国語を話す) 当時我々は中国に対し次のように述べた：現在 S-400 は正にロシア空軍に導入中であり、生産ラインが極めて混んでいる。しかし中国は S-400 を獲得する第一番目の外国になるだろう、と。

SU シリーズ戦闘機の整備について

KDR が得た情報によると、マレーシア空軍の SU-30MKM 戦闘機は一部第三国

の部品を使っており、故障率が高い、という。同様に、SU-35 を導入する中国空軍は、全く新しい技術に直面することになるので、SU-30MKK のように整備は上手くゆくであろうか？

これに対して、VIKTOR は次のように述べた：中国及びインド空軍のスホーイ戦闘機の整備能力はすでに相当高いレベルにある。両国空軍のスホーイ戦闘機の可動率は 70 乃至 80% に達している。（ここで彼が言及した可動率の機体は中国がロシアから輸入した機体であって、中国国産の J-11B、J-15 等を含めていない）

ロシア UAC 聯合集団の消息筋は KDR に対し次のように述べた：中国に輸出する SU-35 の整備の保障期間は 1 年である。この期間、整備はメーカーが直接基地に進出して支援する、と。消息筋は何度も強調した：SU-35 の整備は、スホーイ社しか責任を負えない、と。

VIKTOR は次のように述べた：SU-30MKM の整備問題に関して。現地の整備会社は、インドから制動傘、及び一部のエンジン部品を輸入した。”ロシア製の制動傘は 80 回以上使用できるが、インド製の制動傘の使用可能回数はロシア製の 10 分の 1 以下である。したがって我々としては、スホーイ戦闘機を使用する国家は直接我々と協力し契約に基づいて部品の提供を受けなければならない、と。

さらに VIKTOR は次のように述べた：インドネシアとの SU-35 輸出入交渉は基本的に完了した。数は 12 機以下である。今年中に最終契約書に署名するはずだ。もしインドネシアが最終的に SU-35 を輸入することになれば、中国に次いで SU-35 を使用する 2 番目の外国になる。

KDR：3 年前、中国は、ロシアと LADA 潜水艦を基礎にした新時代のディーゼル式潜水艦の共同開発を希望していた。これは進展しているか？

VIKTOR：このニュースは誤りである。現段階ではこの議論はない。

KDR がロシア聯合造船集団公司から得た消息によると：中露の新時代のディーゼル潜水艦共同開発は、如何なる進展もなかった。

以上